

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年五月度 入選句（投稿総数千九百二十七句・一般投句数七百八十四句）

特選

制服の指の先まで 新入児

大垣市

稲山 清子

入学式は成長の大きな節目で、親も子も喜びと期待と不安の入り交じった、複雑な気持ちになる。人の感情は全身に表れる。顔はつくろうことができても、指はごまかせないと言われている。制服を着て緊張し、指の先までピンとなっている。新一年生の表情が見えてくる。

吊り橋の吊り橋らしく揺れて夏

福井県福井市

三ツ山 ひろし

吊り橋の揺れの怖さを男女二人が同時に体験すると、お互いに恋心が芽生えるという。高所での揺れの怖さと、異性へのドキドキ感が混同してしまうらしい。おもしろい人間心理である。お化け屋敷やジェットコースターなども同様で、怖いものは怖くないとつまらない。下五「揺れて夏」は巧みな表現。

学校に慣れて道草 若葉風

大垣市

早崎 美弥子

若葉は夏木の瑞々しい新葉。若葉雨、山若葉、若葉寒、柿若葉などいろいろな季語がある。入学してしばらく過ぎ、若葉の頃になると心に余裕ができてくる。まして心地好い風などが吹けば、誰でも道草をしたくなるだろう。ほほえましい一句である。

秀逸

色褪せて泳ぐ昭和の鯉のぼり

大垣市

棚橋 みさを

入学の小さな肩に多き夢

大垣市

杉崎 郁子

本にはさむ父の手紙や遠蛙

不破郡垂井町

服部 智恵

御仏に灯る一灯柿 若葉

大垣市

今津 正元

白魚の大きな目をして吞まれけり

愛知県名古屋市

舘野 茂子

春耕の青年太刀を振るごとく

東京都世田谷区

関戸 信治

間のびした牛のなき声 霾ぐもり

大垣市

岡田 あや子

粽解く古里の香を引き寄せて

安八郡神戸町

高橋 泰

さざ波の音を操る 若葉風

大垣市

谷 彩虹

亀鳴くや要件のみの子の電話

大垣市

永井 田鶴子

入選

鯉よりも元気に泳ぐわが息子
少年の三線響き夏に入る
牡丹の一片ほぐれ忌の近し
すれちがふ人と目礼朝桜
好きですと今だに言えぬ万愚節
花吹雪小紋模様の石畳
鉛筆を削り直して新入生
汗だくの園児も無言登城坂
乳歯二本屋根に抛りて風光る
夏めくや赤子の足の空蹴りて

瑞穂市	立川	茜
京都府城陽市	八田	弥須子
岐阜市	石樽	みさ子
安八郡神戸町	後藤	和朗
大垣市	片山	洋紅
大垣市	北島	暁子
不破郡垂井町	富田	実郎
大垣市	小川	ゆき恵
大垣市	傍島	隆
岐阜市	石崎	宗敏

入選

湧水をわかしもてなす抹茶かな
菊の苗片減りしるき鋏の先
先生の机の上に紙風船
棟上げの掛矢打つ音風薫る
枇杷の実が指の先ほど膨らんで
廃校に残る砂場や春惜しむ
雨の香を残し揺れをり花辛夷
嫁ぐ日の蔵より高し桐の花
直球のミットのひびき緑立つ
母の日やいつもと同じ母とをり

大垣市	名和	三津子
岐阜市	森島	紘子
愛知県額田郡	大橋	佳歩
養老郡養老町	田中	紫香
大垣市	多賀	英華
大垣市	今津	正元
愛知県岡崎市	伊藤	桐江
大垣市	田中	雅子
大垣市	野村	多佳子
養老郡養老町	高木	美保

選者吟

子の背丈二寸伸びたり柏餅

武直